

平成26年度 文化庁日本語教育大会

日本語教育の地域連携の可能性を考える —外国人のライフサイクルという視点から—

開催日時 **8月29日(金)・30日(土)**

会場 **昭和女子大学**
(東京都世田谷区太子堂1-7)

参加費は不要です。直接会場にお越しください。

※30日(土)の分科会のみ事前の申込が必要です。(下記URL参照)

外国人の地域社会での活躍を促進するために、日本語教育の様々な担い手同士及び地域間連携の可能性についてパネルディスカッション等を通して考えます。

また、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案等についての実践的なワークショップを行います。

第1日目
8/29
(金)

13:00	開催挨拶	青柳 正規 (文化庁長官)
13:10	施策説明	
14:00	日本語学習支援に役立つWEBサイトの紹介	
14:30	文化審議会国語分科会日本語教育小委員会における審議状況の説明	説明者：伊東 祐郎 (文化審議会国語分科会日本語教育小委員会主査・東京外国語大学教授・留学生日本語教育センター長)
14:45	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の実践事例報告	
	●地域日本語教育実践プログラム A	群馬大学 日本に定住を希望する外国人住民が高齢期に向けて備える「ライフプラン」に必要な日本語教育実践プログラム
	●地域日本語教育実践プログラム B	公益財団法人とよなか国際交流協会 外国人の若者の生活力・表現力アップ日本語事業 ～ユース・多文化エンパワメントプロジェクト～
15:30	パネルディスカッション 日本語教育の地域連携の可能性を考える —住民のライフサイクルという視点から—	進行役：結城 恵 (群馬大学教授) パネリスト：●「生活者としての外国人」のライフサイクル 川村 千鶴子 (大東文化大学教授) ●地域で子育てする母親とともに 松本 里美 (NPO法人シェイクハンス代表理事) ●外国にルーツのある子供とともに 馬場 良二 (熊本県立大学教授) ●外国にルーツのある若者とともに 山本 房代 (公益財団法人とよなか国際交流協会事業主任) ●外国人労働者・外国人高齢者とともに 堀 永乃 (一般社団法人グローバル人材サポート浜松代表理事)
17:30	閉会	

第2日目
8/30
(土)

10:00	「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ	
	第一分科会 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案とは？ —5点セット早分かり!—	米勢 治子 (東海日本語ネットワーク副代表)
	第二分科会 行動・体験中心の教室活動をデザインしてみよう —教材例集を参考に—	内藤 真知子 (公益社団法人国際日本語普及協会専務理事) 堀 永乃 (一般社団法人グローバル人材サポート浜松代表理事)
	第三分科会 日本語学習ポートフォリオを活用してみよう —移動する学習者のための日本語能力評価—	品田 潤子 (公益社団法人国際日本語普及協会所属教師)
12:15	平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 事例発表ポスターセッション	●地域日本語教育実践プログラム A、B (17団体) ※発表団体は、ホームページを御覧ください
14:30	分科会・ポスター発表の成果共有・報告会	
15:00	閉会	

※敬称略

お問い合わせ

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2 旧文部省庁舎5階

文化庁文化部国語課 電話 03 (5253) 4111 (内線2840) FAX 03 (6734) 3818 nihongo@bunka.go.jp

文化庁ホームページ http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/taikai/26/index.html

(平成26年度「文化庁日本語教育大会」の開催について)